

2015年(平成27年)度事業報告及び決算報告

2015年(平成27年)度事業報告

1. 主な事業活動実績

- 小田原地域（小田原市・湯河原町・真鶴町・箱根町）で暮らす精神障害者等が自立した生活を営み、社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- 作業所の運営では、「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や個性を配慮した就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。
- 「改正障害者雇用促進法」が平成28年4月1日に施行され、その2年後にはいよいよ法定雇用率の算定基礎に精神障害者が追加される。この法改正が実効あるものにすべく、一昨年度と同様に「精神障害者の就労支援の強化」を小田原市長へ訴えた。また、私たちにできそうなところから具体的な就労支援につなげるべく、「企業への協働提案など具体的な活動の準備」に着手した。
- 新たな試みとして『エコキャップ活動』を開始し、想定した以上の活動規模に育っている。また、この活動を通して地域の教育機関との協働（コラボ活動）につなげることができた。
- ホームページ及びリーフレット等を活用し、私たちの活動を広く発信すると共に（普及・啓発強化）、協働を投げかけた（連携強化）。リーフレット等に関連機関に常時設置させていただくようにした。
- 職員の資質向上を目指して、「研修等への参加」を強化した。
- 事務所に保管する書類の整備と整理（センターファイル化）を推進し、NPO法人としての活動基盤を強化した。また、「コピー機を更新」し費用削減を達成した。

2. 事業内容

- (1) 精神障害者の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
 - (2) 精神障害者の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
 - (3) 関連機関・団体との連携に関する事業
- 上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

* 総会・理事会・職員会議・地域ネットワーク会議・機関紙編集会議等の開催

- ① 特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月25日に開催し、

年度を通した各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。

- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について協議するなど会運営と事業推進に努めた。（開催日：4/20、9/7、3/18）3回
- ③ 職員会議を毎月定例開催し、作業所における日々の活動を中心として協議するなど施設運営事業を推進した。（開催日：毎月第1金曜日）12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業を推進した。（開催日：5/25、9/7、3/18）3回
- ⑤ 小田原なぎさ会通信の編集会議を開催し、機関紙の充実を図るなど普及・啓発事業を推進した。（開催日：7/22、1/14）2回

（1）施設の設置、運営事業（地域拠点活動 等）

○小田原なぎさ作業所（以下、作業所と記載）

- ・内容：精神障害者（以下、メンバーと記載）一人ひとりの障害の程度や希望・個性を配慮しながら自立（自律）促進を推進した。このために、個別支援計画を作成し、モニタリング・アセスメントなどを活用して、個々にきめ細かな支援を図った。

昨年に引続き、障害に関する映画上映とその後の意見交換を行い、自身で自分を見つめなおす機会を設けた。また、畑の収穫体験に加えて植付体験を盛り込み、自然とのふれあいや畑作業の喜びを体感できる場を設けた。

本年度から新たな試みとして、『エコキャップ活動』を開始した。この活動は、「私たちも誰かを支援できる！！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動である。周囲から多大な応援を得て、約1年間で10万個を超えるキャップを収集でき想定以上の活動規模に育ってきている。このような活動を通して、自らの存在価値を再認識すると共に、自主性や社会参画意識の向上につなげていきたい。

- ・日時：開所日数237日
- ・場所：NPO法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者：10名程度

（2）普及・啓発事業（地域交流活動 等）

○イベント企画及び実行と機関紙配布

- ・内容： 富士見地区防災訓練への参加や各種作品展への参加、富士見地区を中心とした機関紙の配布などにより、地域との交流に注力した。リーフレットと機関紙については、6カ所の機関に常時設置を開始し、普及・啓発の強化を図った。

また、昨年に引続き「なぎさ祭」を開催し盛況に終えた(約70名参加)。更に、前述の『エコキャップ活動』を地域の教育機関(酒匂中学校の生徒会、国際医療福祉大学の学友会)との協働(コラボ活動)につなげることができた。これらの活動を地道に推進し、更に地域との交流活動を発展させていく。

- ・日時： 随時(年10回以上)
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度

○ホームページの活用

- ・内容： 情報発信のツールとしてホームページを最大限に活用し、小田原なぎさ会の活動等について、地域社会へ理解と共に協働を広く投げかけている。開示情報や機関紙などの掲載内容をタイムリーに更新した。

- ・日時： 常時
- ・場所： NPO法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 数名程度

○行政との懇談会、要望活動

- ・内容： 平成28年度に向けた要望書を連携団体である梅の会と連名で小田原市長へ提出した。本会からは「精神障害者の就労支援の強化(雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備)」に的を絞って要望した。

- ・日時： 11月13日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 5名程度

(3) 連携に関する事業(地域ネットワーク活動 等)

○地域ネットワーク会議

- ・内容： 医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を開催した。
- ・日時： 年3回 （開催日：5月25日、9月7日、3月18日）
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度

○関係団体との交流活動

- ・内容： 神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精神連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会に加入し、関連団体との協力・交流・連携の強化を図った。
- ・日時： 年10回程度
- ・場所： 小田原市周辺
- ・従事者： 数名程度

○連携団体との交流活動

- ・内容： 小田原地区精神保健福祉会「梅の会」の総会や新年会に参加し、協力・交流・連携の強化を図った。「じんかれん」の署名活動に協力した。
- ・日時： 年数回程度
- ・場所： 小田原市周辺
- ・従事者： 数名程度